

情報通信審議会情報通信技術分科会
研究開発・標準化戦略委員会
標準化戦略ワーキンググループ（第3回）議事概要

1 日 時 平成19年10月30日（火） 13時30分～16時00分

2 場 所 経済産業省別館10階 1042号会議室

3 出席者（敬称略）

構成員

相澤清晴（主任）、江崎浩、玉井克哉、平松幸男、本城和彦、加藤泰久、古賀正章、中島健二（加藤隆 代理）、田中茂（川西素春 代理）、村上和弘、森脇鉄朗（日比慶一 代理）、宮島義昭、江崎正、原崎秀信、花輪誠、北地西峰、岡進、勝部泰弘、森下浩行、関口潔（佐藤孝平 代理）、喜安拓、藤咲友宏、山下孚、中西廉、星克明

事務局

田中宏（通信規格課長）、荻原直彦（同課標準化推進官）、増子喬紀（同課標準推進係長）、山崎浩史（同課標準推進係）

4 議事

（1）標準化戦略ワーキンググループ（第2回）議事概要の確認

資料 標-3-1 標準化戦略ワーキンググループ（第2回）の議事概要の確認が行われ、特段コメント等なく承認された。

（2）ICT分野における国際標準化戦略の在り方について

事務局より、資料 標-3-2に基づき、ICT分野における国際標準化戦略の在り方の骨子案について説明があった。本骨子案については、今後さらに肉付けしていく予定であり、追加点や修正点があれば、11月6日（火）までに事務局まで連絡することとなった。

なお、本資料に関する主な質疑については以下のとおり。

- ・資料P.4において、キャリア、ベンダ等に対して「公平性」を持ってマネジメントすることが重要とあるが、ルールに従って実施されるならば、公平にする必要はないと思うので、「公正性」と修正してはいかがかと思う。
- ・資料P.5の④について、ICTの中の知財はマーケットの特許を独占しようというものではないので、「本来、両極にある」という記述ではなく、「本来、両極にあるように見える」というような書きの方がいいのではないか。特許をはじめとする知的財産は、どこかが牛耳るものではなく、標準化の枠組みに入る入場券のようなもので、良い技術を標準にして、社会を良くして行こうというニュアンスが出るように修正頂ければと思う。
- ・「標準化をやらないと大変なことになるので、しっかり取り組むべき」という言い方だけでは不十分。というのも、一方では、「標準化活動をやらずに、他国に標準を全部とられても仕方がない」という考えもあるわけで、企業の中では、「儲からないので、標準化活動はやらなくていい」というような議論に陥る可能性もある。しかし、国際的に日本が果たすべき役割として考えると、標準化についても「このくらいはきちんとやらなくてはいけない」という論理があるはず。標準化とR&Dは車の両輪のようなもので、R&Dと一体となって議論する必要がある。本資料については、経営者を意識して、標準化のプロテクション的な意味合いが勝っているが、「国際市場で儲

けるために取組む」という側面に加え、「本来日本として国際的な立場でこのくらいは貢献すべき」という論理を記述するのが望ましいと思う。

→骨子に社会貢献や国際貢献として、標準化が重要であるという一文を入れてはいかがかと思う。

- ・資料P.2（2）で国内市場に偏重しているという問題点を挙げているのに対して、P.3以降での戦略として、例えば、国内の先鋭的なものを海外展開する際に、R&Dセンターから事業部への引渡しにおいて、市場性を考えるというような考えが弱いように感じた。

（3）各作業グループの検討状況について各検討グループからの作業報告

資料 標-3-3～11に基づき、各作業グループのリーダーから検討状況の説明があった。

主な質疑については以下のとおり。

【「ICT標準化・知財センターの設置」の検討状況】

- ・センターが担うべき具体的な機能について、国家プロジェクトの採択に関与する機能が必要ではないか。このままだと、ただの資料置き場になってしまうような気がする。
- ・諸外国状況の調査を含めて、制度面の検討を行うことを提言すべきではないかと思う。
- ・センターが行うべき機能として、人材育成や国際会議の招致などが挙げられているが、センターが行うべき機能とそうではない機能の切り分けについてはどうお考えか。判断基準等の考えがあれば教えて頂きたい。
→判断基準は特段ない。ただ、様々な機関がそれぞれノウハウを持っており、何から何までセンターでやる必要があるというわけではないと思っている。また、今回はアンケート結果を基に議論している関係上、一般的な内容になっているので、今後のface to faceの打合せでは、インパクトのある意見が出てくれば良いと思っている。
- ・標準化は人で決まる部分があるので、キーマンとなる人を2年程度海外からセンターに呼び寄せるということも考えられる。センターとしても活動がやりやすくなるのではないか。
- ・現状の資料だと何を支援するか見えてこない。皆様のお知恵をお借りして、より良いものになるようさらにご議論頂ければと思う。
→センターの考え方として、戦略をうまく回すための「場所」として考えるか、知恵を出す「機能」として考えるのかという点については、この報告では「場所」を設けることを前提とした検討になっているように感じる。センターの戦略を検討する機能面が見えてくるとインパクトが出ると思う。
- ・戦略を立てるときは、技術ごとに戦略が違うので、技術分野を絞って検討するべきではないか。

【「ICT国際標準化戦略マップの整備」の検討状況】

- ・無線と有線をそれぞれ担当するARIBとTTCは今までどのように連携してきているのか。
→ITU-RについてはARIBが、ITU-TについてはTTCがそれぞれ担当し、分野ごとに担当している状況。ただ密接に関係する部分については連携しているところもある。例えば、3GPPsの一部の会合では共同で提案、対処することも行っている。
- ARIB(無線)とTTC(有線)の区分は、「通信・放送分野の改革」の方向性に合わなくなっており、海外主要地域でも一本化されている例が多い。作業グループにおいてもこのあり方について意見があったが、戦略マップの議論ではないので、今回の報告には記載しなかった。

「標準化団体の活動強化・相互連携等」作業グループの方で考慮していただけるとありがたい。

- ・ 研究開発の各技術項目をベースに、標準化マップを作成するのか。
- 作業グループでは、研究開発戦略WGで重点項目にあがっているものに関しては、それを活かす形にした方がいいのではないかと考える。不足分については新たに加えることを考えている。
- 研究開発の各項目にあがっているものは、最先端の技術が中心となっている。この分類だけだと、どう標準化に繋がるのか見えにくい。それが見えると企業としても取組みやすくなる。標準化においては、最先端ではなくて、至急標準化の対応が必要なものもあり、そのような技術も重要である。そのため、マップについては、標準化の重要性における視点を付け足して頂いた方がいいと思う。
- 研究開発戦略WGで提示された各項目のみに頼らずにマップを作成頂ければと思う。また、研究開発戦略WGで、先々標準化に届きそうなものについては技術項目を抽出してもらい、標準化戦略WGで参考にするという方法もあるのではないと思う。
- 本WGと研究開発戦略WGにおいて、いずれ連携が必要だと考えている。今後の対応については事務局で検討したい。

- ・ R&Dをやっていると、標準化を考えずに開発を進める傾向にあるが、どこの標準化が重要であるかを、アーキテクチャを描く段階から考えておかなければならない。今回作成されるマップについてもできるだけ見通しのきいた見方ができるマップを作成頂ければと思う。

【「ICT標準化エキスパートの選定」の検討状況】

- ・ エキスパートの支援方法については、企業がまとまったグループとなっているときの支援方法、単一の企業が頑張っているところでの支援方法、日本の国策として集まった企業の支援方法等でやり方が異なるので、場合分けして議論をまとめて頂けると良いのではないかと考えている。

- ・ カナダで開催されたS I I Tにおいて、アメリカの大学の先生から、今いるアメリカの5万人の標準化従事者のうち、ここ5年間で2万5千人が引退する予定で、国レベルの大きな問題になっているということ聞いた。このような状況の中、今回のような議論をすることはいいタイミングである。

- ・ どう育成するかが一番大事である。例えば、I S O Cでは合宿を行い、議論の方向性を決めており、そのようなスキームはいいと思う。研修においては、どう国際的な要素を入れるかが重要であり、是非その戦略についても記述頂ければと思う。

- ・ エキスパートの役割として、企業の提案を通す標準化活動と、役職者を担える人材を育てる活動があると思うが、二つは分けて議論頂いた方がいいと思う。また、エキスパートが役職者であると、議長として平等に議論を進める必要があるので、企業の利益を反映しながら動くということは難しい。
- エキスパートに頼りきるのではなく、企業は自分で戦略をたてる必要があり、エキスパートとの利用はバランスが大事となる。

- ・ 企業を去ったOBが企業提案を通すエキスパートをやるというのはなかなか難しいと思う。しかし、議長の経験を活かして、会議の進め方やハンドリング等を現役の人たちに教えることができる。

- ・ 若手育成については、大学の学生を含めて考える必要がある。

- 作業グループでは大学にヒアリングすることも考えている。
- 若手育成というが、若手に標準化に携わる希望者が少ないのが問題である。専門家を育てるにしても役職者を育てるにしても、魅力的なキャリアパスを示す必要がある。有能な人材を標準化に引き付けることが大切である。

【「ICT国際標準化推進ガイドラインの策定」の検討状況】

- ・垂直的なものからモジュール化を進めた良い例としてFelicaがある。市場を立ち上げながらオープン化を進めた点などは、企業戦略的にはいい例だと思う。

【「標準化団体の活動強化・相互連携等」の検討状況】

- ・ここでは、国際連携や相互接続についても議論しているのか。
- 作業グループでは、標準化機関／団体の連携のあり方について議論している。
- 相互接続について、骨子や前回の議論で注目を集めている部分であるので、どこで議論を進めていくのかを事務局で整理して頂きたい。

- ・FMCやホームネットワーク等の国内で標準化ができていないものについては、少し考えなくてはいけない部分だと思う。また、マーケットは近いが、独立性が高い標準化分野についても、少し注意が必要であり、戦略的にみていかななくてはならない部分だと思う。日本が先に決めることができれば、そのフレームワークを世界にアピールすることができる。

【「企業の標準化活動への支援」の検討状況】

- ・全ての企業を対象とした支援を書いているが、外国企業と提携しているところもあるので、個別の企業への支援ではなく、日本企業を横断的にサポートするような支援がいいと思う。また外国企業も含めて支援するのか等についても検討が必要。各企業間で競争原理が自然とはたらくようなものが良いと思う。

【「アジア・太平洋地域における連携強化」の検討状況】

- ・中韓とその他のアジアを分けて議論を進めることはいいと思う。特にITUでは国ごとに投票権があるので、アジアの多くの国を日本の仲間に取り入れることはいいことである。仲間作りについては骨子でも触れるべきである。
- ・インドは産業界や大学において情報通信分野が大きく変動しているので、検討の中でインドにも触れて頂ければと思う。また相互接続については、主にアジア・太平洋を対象にしているのであると思うので、本作業グループで記述いただいてもいいと思う。
- テストベットについてはセンターの役割にも入るかと思うので、それは別途相談して頂きたい。

【「ICT知的財産強化戦略の策定」の検討状況】

- ・知財の観点で、参照プログラムや参照コードをどう見るかということは重要である。参照コードをコモンズとしてみて、先進的な開発をすることや市場に対するフィードバックを行うということは非常に有効な手段だと思うので、そのような点もご議論頂ければと思う。

【「ICTパテントマップの整備」の検討状況】

- ・特許庁でも技術ごとに技術状況調査というものがあるので、標準化技術に特化したものを調査して頂きたいと思う。
- ・本活動ではICTパテントマップの整備を行うのか、それともマップの作成をするところまでいくのか。現段階では、方法論ばかりでイメージがわかりにくい。一つくらい例として出して頂ければ、イメージがつかめ、議論しやすくなると思う。

→まずは、マップに具体的にどのような要素を盛り込み、誰がどう整備するかを議論頂くつもりである。ただ、議論の中で、具体的なマップのイメージができるのではないかと考えている。

→マップの策定にあたっては、作成やメンテナンス等多くのお金が必要となる。この費用等に関しては、現在20年度予算として要求しているところであり、また、今年度のマップの作成（サンプルも含む）に係る調査については、シンクタンクに依頼を考えているところ。

【全体】

- ・重複している部分については、各作業グループで連携して、限られたリソースをうまく活用して頂きたい。

- ・各作業グループで全体として取組んでほしいものについては、骨子の部分に入れて頂ければと思う。

→骨子案について意見等があれば、11月6日（火）までに事務局までご連絡いただきたい。

- ・次回の会合以降、本WGと研究開発戦略WGの検討状況を、それぞれの会合で報告し合うこととする。

（４）その他

事務局より、参考資料1に基づき、ITU-R RAの結果について説明があった。次回ワーキンググループの日程等については、11月下旬を目処に開催を予定しており、詳細については主任と相談の上別途連絡することとなった。

[配付資料]

資料 標-3-1	標準化戦略ワーキンググループ（第2回）議事概要（事務局）
資料 標-3-2	ICT分野における国際標準化戦略の在り方（骨子案）（事務局）
資料 標-3-3	「ICT標準化・知財センターの設置」の検討状況（喜安構成員）
資料 標-3-4	「ICT国際標準化戦略マップの整備」の検討状況（加藤構成員）
資料 標-3-5	「ICT標準化エキスパートの選定」の検討状況（山下構成員）
資料 標-3-6	「ICT国際標準化推進ガイドラインの策定」の検討状況（北地構成員）
資料 標-3-7	「標準化団体の活動強化・相互連携等」の検討状況（佐藤構成員）
資料 標-3-8	「企業の標準化活動への支援」の検討状況（原崎構成員）
資料 標-3-9	「アジア・太平洋地域における連携強化」の検討状況（喜安構成員）
資料 標-3-10	「ICT知的財産強化戦略の策定」の検討状況（小森構成員）
資料 標-3-11	「ICTパテントマップの整備」の検討状況（花輪構成員）

参考資料1	国際電気通信連合（ITU）無線通信総会（RA）の結果について
参考資料2	ICT標準化・知的財産強化プログラムの全体イメージ
参考資料3	標準化戦略ワーキンググループ構成員名簿

以上